

令和3年度

京浜港湾

随意契約理由書

(件名) 川崎港臨港道路東扇島水江町線整備効果検討業務

本件は、下記の理由により、八千代エンジニアリング株式会社横浜センターと随意契約致したい。

記

本業務は、国土交通省の定める事業評価の手法に基づき、川崎港臨港道路東扇島水江町線整備事業における整備効果について、検討を行うものである。

臨港道路の整備効果の検討にあたっては、交通量推計及び整備効果評価に精通していることが必要となり、専門的な技術が必要である。また、当事業箇所周辺の開発計画の動向、現況の交通状況や道路利用状況の変化等の多岐にわたる知識も必要となる。

よって、「当該事業箇所における臨海部の混雑状況を適切に評価し、現況再現性の高い交通量推計を行うため、推計モデルを設定する上での着目点」について、技術提案を求め、仕様書に提案を反映し、本業務を遂行することにより、最も優れた成果が期待出来る。

したがって、簡易公募型プロポーザル方式により、発注する事とした。

八千代エンジニアリング株式会社は、本業務実施に係る総合評価型プロポーザル方式により提出された技術提案書を建設コンサルタント等選定委員会において評価検討した結果、予定管理技術者の経験及び能力、実施方針及び特定テーマに対する技術提案等の項目においてもっとも優れた技術提案を行った業者である。

よって、会計法第29条の3第4項の規定により、八千代エンジニアリング株式会社横浜センターと随意契約致したい。

令和 3 年度

京 浜 港 湾

随 意 契 約 理 由 書

(件 名) 横浜港新本牧地区工事安全管理等業務

本件は、下記の理由により東亜建設工業（株）横浜支店 と随意契約致したい。

記

新本牧ふ頭建設事業については、航行安全対策について学識経験者、海事関係者、海上保安庁、国土交通省関東地方整備局及び横浜市港湾局からなる「横浜港新本牧ふ頭整備に係る船舶航行安全対策調査検討会議」（以下検討会議という。）を 2018（平成 30）年 12 月に設置し、検討を行った。その中で、新本牧ふ頭建設工事の安全と一般航行船舶等の安全を確保するための対策として、「警戒船の運用」、「工事用作業船の運航管理」、「工事作業情報の周知および保安応急等」について総括的に管理運用する体制を図ることを海事関係者及び海上保安庁から強く要請された。

これに対して、共同事業者である国土交通省関東地方整備局と横浜市港湾局で、当該工事が長期間にわたり船舶航行の輻輳区域で行われることを勘案し、事業者（発注者）と請負者の代表者からなる「新本牧ふ頭建設工事連絡協議会」及び「航行安全連絡協議会連合会」を設置し、同連合会事務局が総括的な安全管理を実施することで 2019（令和元）年 5 月の検討会議で了承され、工事中の安全対策の了解が得られた。

こうした背景を踏まえ、令和元年 12 月 19 日に横浜市と国土交通省関東地方整備局で「横浜港新本牧ふ頭建設工事に伴う船舶航行安全管理に係る協定書」（令和元年 12 月 19 日付け、港湾政第 931 号、横浜市回答）を取り交わし、その協定書に従って新本牧地区における建設工事の安全管理業務を令和 2 年度より実施しているところである。

本業務は、国及び横浜市が行う新本牧ふ頭建設工事の安全と一般航行船舶の安全を確保するため、情報管理、警戒管理、施設維持管理及び運航管理を行い、有効かつ適切な安全管理が総括的に機能するよう、横浜市との共同事業として安全管理業務を遂行することを目的とする。

東亜建設工業（株）横浜支店は、本件業務を当局と共同で実施する横浜市が既に契約を予定しているため、同社と契約することによって円滑な対応が図られる。

よって、会計法第 29 条の 3 第 4 項に基づき、東亜建設工業（株）横浜支店と随意契約するものである。

令和 3 年度

京浜港湾

随意契約理由書

(件名) 土地使用料 (東扇島)

本件は、下記の理由により、三菱UFJ信託銀行株式会社と随意契約致したい。

記

本業務は、川崎港東扇島水江町地区において実施中の川崎港東扇島水江町地区臨港道路整備事業にて使用する作業ヤードの借上を行うものである。

当該事業の作業ヤードは、限られた工期の中で速やかに事業を進めるため、事業用地と隣接していることが必須である。上記の条件をもとに作業ヤードとして適切な物件を調査したところ、三菱UFJ信託銀行株式会社の当該物件以外に適切な物件はなかったため、三菱UFJ信託銀行株式会社を特定した。

よって、会計法第 29 条の 3 第 4 項により、三菱UFJ信託銀行株式会社と随意契約することとする。